

# 富永の未来をつくる会

## 富永まちづくり計画【基本計画編】(案)

### ■富永まちづくり計画策定の経緯と概要

私たちが住み、暮らし、そして愛着ある富永町。昔から変わらず続くと見える私たちの富永町にも、少子高齢化・グローバル化・情報化などの社会現象が、まさに急激な変化をもたらし、地域活動の持続に大きな課題となっています。このままでは大きな波の中に飲み込まれてしまう将来に対し、富永町の住民である私たちが望む未来を私たち自らの手でつくりたい、との思いから、富永の未来をつくる会として「富永まちづくり計画」の策定に取り組みました。

#### 計画策定までの協議の流れ

- 平成26年2月23日 第1回：富永の現実とあるべき姿の確認
- 3月15日 第2回：計画づくりについて、他地域のまちづくり研究
- 5月21日 第3回：「なりたい」富永の未来像について
- 6月21日 第4回：まちづくり計画の目的と目標設定
- 7月26日 第5回：まちづくり計画の骨格決定
- 8月16日 第6回：富永の未来像キャッチフレーズ決定
- 9月20日 第7回：まちづくり計画概要決定
- ...

### ■富永まちづくり計画の概要

富永の未来を私たち住民が自らつくりだしていくために、①まちづくりの目的、②まちづくりの達成目標・方針、③目標を達成するための具体的な取り組み案（手段・手法）を階層的に構成しました。

① まちづくりの目的では、まちづくりに取り組んだ結果として、どのような暮らしができる富永町になっていったらよいか（めざす未来の暮らしの姿、方向性）を議論し、その具体的な姿をまちづくりの目的に決めました。

②の目標・方針の設定は、富永町の良さを活かしながら、未来の富永町の理想像に向けて何に取り組むべきか、その方向性や達成目標（大目標＝方針）を決めました。

③の具体的な取り組み案は、私たち住民自身が主役となって継続的にできることを中心に、富永町の地域資源を活用した活動の計画づくりをしました。

富永まちづくり計画は、私たち住民が富永町で暮らし続けるために、未来の富永を私たち自身で魅力あるところにするためのものです。この計画に沿って、私たち住民による、私たちが選択した未来に向けた、富永町のためのまちづくりに取り組んでいきます。

## ■まちづくり計画の目的＝富永の未来像の共通認識

富永の未来をつくる会では、まちづくり計画を実践し目標を達成していった際に、富永がどのようなになっているのか、何のためにまちづくり活動をするのか、その最終的な目的を、富永町のあるべき未来像として内外に示し、まちづくりに関わる全ての住民の共通認識とする合言葉を設定しました。

### 《未来像設定までの協議》

富永町は山間(やまあい)の自然環境に恵まれ、営々と営まれてきた集落の歴史があり、住民どうしのふれあいが豊かな山里です。この場所の未来像を描くにあたっては、それらの環境・歴史・生活文化をまちづくりに活かす方向で協議が進められてきました。

この山里に対する思いは各世帯・各人によりさまざま、未来像を設定する協議でもさまざまな意見が出ました。ただし、協議した住民に共通した思いは、富永町への愛着であり、山里暮らしへの誇りであり、この場所での生活の継続への願いでした。

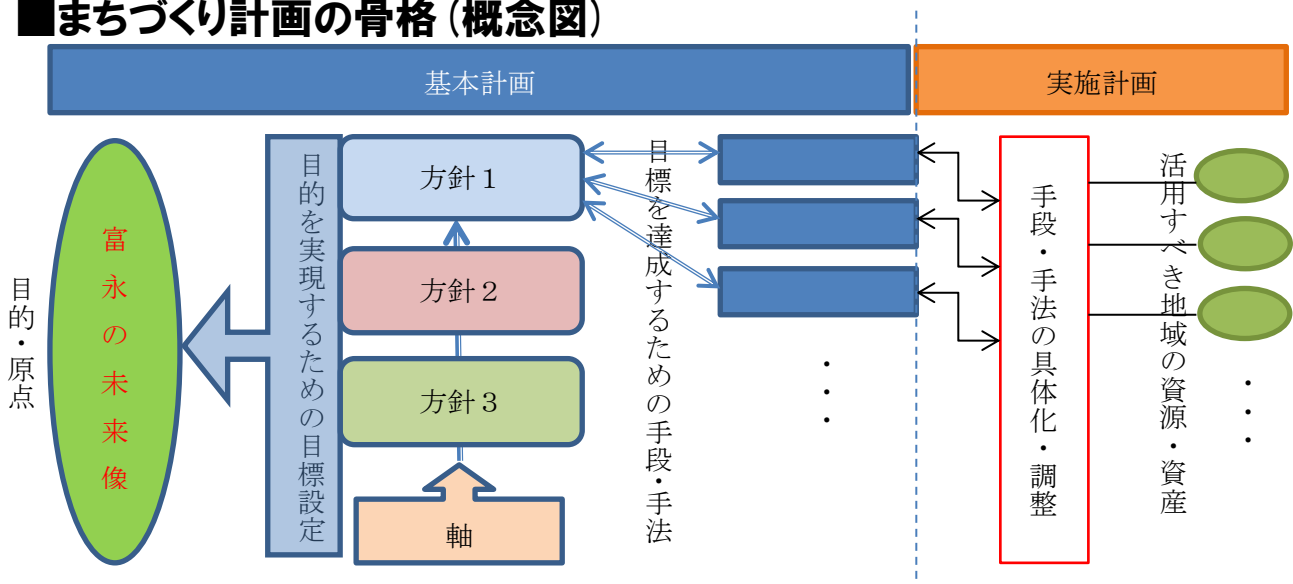
そこで、富永町の良さを守り磨きながら、この山里の生活が続いていくことを思い描き、様々な思いも包みながら、富永の未来像としてあるべき姿を示す具体的なイメージ・言葉を選択しました。

## 富永の未来像

# 山里暮らしの理想郷・富永

この富永の未来像は、まちづくりに関わるすべての人の共通認識であり、まちづくりの活動はすべてこの言葉の具体化につながりとともに、富永そのものを示す標語となります。

## ■まちづくり計画の骨格 (概念図)



## ■まちづくりの目標・方針の設定

まちづくりの目的「山里暮らしの理想郷」を実現するため、達成すべき3つの大目標（＝方針）と1つの軸を設定しました。

### まちづくり方針1 暮らしをつなぐ「山里暮らし再発見」

富永町での暮らしを継続していくためには、現在住んでいる人たちがこのまま住み続けることと、富永に魅力を感じて新たに住民になる人が必要です。現在住んでいる人にとっても、新たに住民になる人にとっても、この山里の暮らしは魅力的でなければなりません。

そこで、定住や転入を促進し、世帯数と人口の増加を目標として、歴史や自然、文化や既存の施設、農業などの地域資源を活用し、住民自らが富永ならではの生活を楽しむ仕組みを作ります。

### まちづくり方針2 人と人とのつながり・人にやさしい富永

富永町は住民同士顔見知りであり、日頃から集落の維持活動にも積極的に関わるなど、人と人とのつながりが密なところ。近所が近助となる、支えあえる人がいる暮らしは大きな安心を得ることができます。また住民は比較的長寿でもあり、環境に恵まれた健康の里とも言えます。

そこで、外からの来訪者の増加を目標として、恵まれた自然環境や景観、生活風景の整備活用により、住民がお互いに協力しながら生活利便性の確保に努めるとともに、子どもから高齢者まで来訪者にも優しく、また訪れたいくなるような山里としての魅力の向上に取り組みます。

### まちづくり方針3 山里起業・環境エネルギー先進地

富永町での暮らしを維持・向上するためには、時代の先を見越したこれまでにない新たな形態の「仕事」をこの場所につくる必要があります。集落の維持のためにも、「かせぎ」を得る努力が欠かせません。

そこで、地域資源を活用した仕事の創設を目標として、人材育成や環境整備に取り組みます。特に環境エネルギー分野については、地形等の利点を活かし、太陽光発電や小水力発電等の再生可能エネルギーへの取り組みを進めます。

### まちづくりの軸 山里情報発信

富永町の魅力を高めるまちづくりの活動は、内外に向けた情報発信により、その成果を含めて広く広報し、反応を確認することが大切です。

そこで、山里暮らしの理想郷・富永の情報発信を、まちづくり方針や目標と手段・手法などのまちづくりの階層を横断・縦断する軸として設定し、「富永」のブランド化を目標として随時まちづくりの取り組みを発信できるように努めます。

## ■取組の内容

それぞれのまちづくり方針のもとで、目標達成のために富永町の地域資源や良さを活かしながら取り組む、手段や手法をまとめました。

### まちづくり方針1 暮らしをつなぐ「山里暮らし再発見」

達成目標：定住・移住を推進し、10年単位で世帯数を増加する。

#### 1. 定住・移住者の受け入れ

- ①空家・空き農地対策
- ②持続可能な地域の仕組みづくり

#### 2. 住民が生活を楽しむコトを起こす

- ①歴史・文化の再発見と継承
- ②山里の自然景観、生活風景の活用
- ③山里の生活の良さを見直す

軸：情報発信（富永暮らしの魅力を伝える）

### まちづくり方針2 人と人とのつながり・人にやさしい富永

達成目標：来訪者を継続的に増加させる・リピーターを確保する

#### 1. 景観整備

- ①森林景観の整備
- ②導入路の景観整備

#### 2. 催事や体験の企画・実施

- ①お祭りの復活と催事開催
- ②山里暮らし体験の継続的な実施

#### 3. 既存施設の活用

- ①学習センターとの連携

軸：情報発信（行ってみたいくなる富永）

### まちづくり方針3 山里起業・環境エネルギー先進地

達成目標：集落を維持するための自治体収入の増加

#### 1. かせぐ場所・機会をつくる

- ①担い手・リーダー（人）づくり
- ②場・機会の提供
- ③既存団体の活用

#### 2. 環境を活かしたエネルギー供給

- ①大規模太陽光発電の誘致
- ②小水力発電による電力自給

軸：情報発信（協力したくなる富永）

#### 多くのチャンネルによる随時不断の情報発信

①WEB等の各種媒体(外部含む)利用

②対面による直接的な印象付け

③催事等による富永体験

④物産等を通じた富永への関心喚起

## ■まちづくり計画の実現に向けて

### ◆まちづくり基本計画と実施計画とまちづくり活動

富永まちづくり計画は、「基本計画」と「実施計画」で全体を構成する予定です。

この基本計画は、私たちが設定した富永の未来像を実現するための方針や目標設定、手段・手法をまとめ、まちづくりに関わる住民の共通認識とするものです。この計画に沿って、実際の活動につなげるための「実施計画」を作成します。実施計画は、集落全体での取り組みとして作成することも、個々の活動ごとに作成することも可能です。ただし、それらはまちづくりに関わる住民全員に周知されなければなりません。また、誰が何をするのか、実施の時期等について、役割分担とスケジュールを明確にすることが必要です。

まちづくり基本計画、実施計画に沿って活動を行う際には、計画の進捗を管理するとともに、個々の事案の調整機能が必要です。この調整機能をあらかじめ設定します。そして、時節や状況の変化によって必要が生じた場合には、計画の見直しを図ることも肝要です。この基本計画で設定したまちづくりの大きな目的「山里暮らしの理想郷・富永」の実現とその方針を常に確認できれば、計画自体に固執することなく柔軟に活動の継続を図ります。

### ◆まちづくりの推進

まちづくり活動は、最小単位で眺めれば、まちづくりに関わる全員がそれぞれの責任と役割を自覚し、誰が・何を・いつ・どのように(目的・目標に合った形で行うか)にかかっています。ただし、まちづくりを継続して行うためには、主体的な意欲の継続が欠かせず、無理や無駄、義務感のみの活動は避けなければなりません。谷川が1滴のしずくから起こり、いく筋もの流れを集めて大河となるように、望みは高く掲げても、最初はできるだけ身近なところから始め、大きな動きにつなげていくことを心掛けたいと思います。

また、つながりとまとまりは強いながらも、少ない戸数と人数で始める壮大なまちづくりの物語は、人や個人資産を含めた地域資源を存分に活用して動き出すものです。私たちが思い描く未来の富永のため、個人所有であっても個人の利用に供されない資産は、まちづくりの共有の財産として積極的に活用することや、責任と役割を分担し、特定の個人に過度な負担がかからないようにすること、集落内だけでできないことは外からの力も借りる工夫をすることなどをここに確認します。

さて、ここからが正念場です。富永の未来像を実現するため、一所懸命、気負わず楽しみながら頑張りましょう！！

富永まちづくり計画【基本計画編】(案)

発行 : 平成26年9月 富永の未来をつくる会  
編集 : 地域人文化学研究所